

# 社団法人日本新体操連盟

## 平成18年度第1回総会議事録

1. 会議名： 平成18年度第1回総会
2. 日時： 平成18年4月25日（火）11時00分～11時30分
3. 場所： 東京都港区西麻布3-2-32 「麻布霞会館・203号室」
4. 構成員現在数： 479名
5. 出席会員数： 338名（うち委任状出席者332名）  
以下出席会員  
WAVE・R・G、Sweet・ピュア・R・G、ピュアR・G  
マリン、ジャスコマリソピア、ジャスコ浜松
6. 欠席会員数： 141名
7. 出席役員： 二木 英徳（会長） 朝倉 正昭（副会長） 高橋 明（副会長）  
福本 隆（副会長） 荒井 隆（専務理事） 石崎 朔子（常務理事）  
渡辺 守成（常務理事） 池田真喜子（理事） 岩本 晃（理事）  
上村 郁子（理事） 橋本 千波（理事） 藤島八重子（理事）  
  
関田史保子（常務理事） 秋山エリカ（理事） 佐藤 昌子（理事）  
崇島 慎一（理事） 谷口 裕代（理事） 谷原 誠（理事）  
山崎 浩子（理事） 田中 元（監事） 横田 章（監事）  
以上21名（うち委任状出席9名）
8. 欠席役員： 岡 久留実（理事）  
以上1名
9. 議案：  
決議事項  
第1号議案 平成17年度・事業報告について（定款第29条関連事項）  
第2号議案 平成17年度・収支決算について（定款第29条関連事項）  
第3号議案 その他
10. 議事の経過及び結果  
(1) 議長による開会宣言  
（社）日本新体操連盟・定款第28条の定めにより議長を会長二木英徳が勤め、開会宣言を行った。  
(2) 議事録署名人の選出  
定款第32条により、議長は議事録署名人を石崎朔子常務理事と上村郁代理事にする事を議場に諮り承認された。  
(3) 定足数の確認  
定款第30条により総会出席者数委任状含めて338名であることが池田真喜子理事より告げられ、議決定足数を満たしている事が報告された。  
(4) 議決事項  
第1号議案「平成17年度・事業報告」について（定款第29条関連事項）  
議長は説明者として渡辺守成常務理事を指名し、渡辺常務理事は下記内容の説明を行った。
  1. 平成17年度登録状況について  
平成17年度の登録状況として、

団体数	479団体
選手数	7,918名
審判数	942名
指導者数	1,242名
愛好者数	30,468名

の登録状況を報告した。

2. 年間事業数について

平成 17 年度に会議類 4 回、競技会類 6 回、指導者育成セミナー 12 回開催したことが報告された。

3. 第 14 回全日本新体操クラブ選手権について

8 月 19 日から 21 日までの 3 日間「東京体育館」で開催され、前回大会より参加チームが 30 チーム増加したことが報告された。

4. 第 5 回全日本新体操クラブ団体選手権について

9 月 11 日「千葉ポートアリーナ」で開催され、前回大会より参加チームが増え 75 チームで開催された。大会のレベルが向上しており、第 6 回大会からはシニア上位 2 チームが「全日本新体操選手権」へ進出することとなったことが報告された。

5. イオンカップ 2005 世界新体操第 14 回全日本新体操クラブ選手権について

10 月 28 日から 30 日までの 3 日間「東京体育館」で開催され、19 カ国 20 チームの参加があった。大会では O・カブラノバ選手が初登場初優勝を飾り大変盛況な開催であったことが報告された。平成 18 年度では、三重県にて「ワールドカップファイナル」が同時開催になることも合わせて報告された。

6. 第 7 回日本新体操祭について

10 月 29 日イオンカップ 2 日目に「東京体育館」で開催され、53 クラブ 1994 名の参加があった。時間的余裕がないため、大会要項では先着 40 チームを受け入れる予定であったが、参加希望にこたえるため、今回は 53 全チームのエントリーを受け入れることとなった。その結果、本番会場での事前練習が行えない等あったが、多くの参加者よりご好評いただく結果となった。

本連盟主催各大会において入場時の混雑、怪我、荷物を広げての席取り等苦情をたくさんいただいていたので、特に苦情が多かった「日本新体操祭」及び「チャイルド選手権」では平成 17 年度より全席指定有料チケット制度を導入した。その結果、いただいていた苦情がなくなったため制度化が成功したものと確認できた。ただし、新たに「チケットぴあに電話がつかない」等販売方法についてのご意見をいただいているので販売方法を改善していくことが報告された。あわせて、平成 18 年度は同時開催の「イオンカップ」が三重県開催のため「日本新体操祭」は休止とし平成 19 年度に再開することが報告された。

7. 第 8 回全日本新体操チャイルド選手権ならびに

第 5 回全日本新体操キッズコンテストについて

2 月 24 日から 26 日までの 3 日間「東京体育館」で開催され、357 クラブ 831 名の参加があった。参加者増加の結果、朝 9:30 から夜 8:00 まで競技を行うこととなった。今後も大会参加者の増加が考えられ、小学生大会ということからもこれ以上遅い時間に開催することもできない。そのため、以後開催方法の改善を図る。まず、第 9 回大会では競技フロア全部を同時進行することで対応し、第 10 回大会からは東日本、西日本と予選会を実施し決勝大会として全日本大会を実施する方向であることが報告された。

#### 8. 平成 17 年度セミナーについて

平成 17 年度において、

指導者育成セミナー	初級集中講義	3 回
指導者育成セミナー	上級	7 回
指導者育成セミナー	海外	1 回
審判育成セミナー		3 回
計		14 回

のセミナーが開催された。海外初級セミナー「ロシア」は開催予定であったが、現地の都合により急遽中止となり、参加予定者には上級海外セミナー「ベラルーシ」にて対応させていただくという措置をとった。旧ソ連系の国々では物価の急激な上昇により、時期、参加費等の見直しを図ることが報告された。

#### 9. 平成 17 年度表彰について

本連盟では、「功労賞」「最優秀選手賞」の 2 つの賞を表彰しており、「平成 17 年度第 4 回理事会」において福本隆本連盟副会長へ「功労賞」が贈られること。「最優秀選手賞」は該当なしだったことが報告された。

#### 第 2 号議案「平成 17 年度・収支決算」について（定款第 29 条関連事項）

議長は説明者として荒井隆専務理事を指名し、荒井専務理事は下記内容の説明を行った。

##### 1. 決算額について

平成 17 年度予算 2 億 1388 万 5039 円に対して、決算額 2 億 8900 万 0464 円であったことが報告された。

##### 2. 収入の部について

国内大会では参加者が各大会とも増加したことによって増収となり、「日本新体操祭」「チャイルド選手権」においては平成 17 年度よりチケット販売収入もあったため更に増収となっている。また刊行物の発行で「チャイルド選手権」の指導用 DVD を作成販売したこと、大会 DVD の販売に力を入れたことによって 227 万 2675 円の収入となったことが報告された。

##### 3. 支出の部について

国内大会では経費が予算超過しているが、これは参加者が各大会とも増加したことによっての経費増であって、収入の増加で経費を吸収しているので問題はない。競技規則の制定及び調査研究の予算超過については

①イオンカップ開催中に行う国際研究会において、今回イオンカップ参加国が例年の約 2 倍であったため、それに伴い研究会も参加者が増加し 20 万 6000 円の予算超過であった。

②国内競技規則では、平成 17 年度「チャイルド選手権」ルール変更の会議類増加によって 13 万 1240 円の予算超過であった。

##### 4. 次期繰越収支差額について

以上の結果、予算 730 万 5039 円に対して 1701 万 5524 円の次期繰越収支差額となり予算を大きく上回ることができたことが報告された。

5. 資産について

貸借対照表、財産目録においても本連盟資産合計を 88 万 5819 円増やすことができ、資産合計 4181 万 6080 円、正味財産 3893 万 9580 円となったことが報告された。

以上の説明の後、議長は議場に第 1 号議案、ならびに第 2 号議案についての質問、意見を求めたが意見が出されなかった為、第 1 号議案「平成 17 年度事業報告」第 2 号議案「平成 17 年度収支決算」の決議を諮り全会一致で承認された。

第 3 号議案「その他」について

議長は議場にその他議案の提出を諮ったが提出されなかった。

(5) 閉会宣言

議長は他に質問、意見がないのを確認し総会の終了を宣した。

この議事録が正確であることを証するため、議長ならびに議事録署名人は次に署名押印する。

平成 18 年 4 月 25 日

社団法人 日本新体操連盟 平成 18 年度第 1 回総会

議 長 二 木 英 徳

議事録署名人 石 崎 朔 子

同 上 村 郁 代